

平成26年度 大阪府立大学 授業公開講座(前期)

番号	講座名	講師	曜日	コマ	定員	開講日
1	西洋思想の系譜2A	中村 治	月	2	20	4月14日
2	中国古典語 I	大平 桂一	月	2	5	4月14日
3	ジェンダーとヨーロッパ文化	村田 京子	月	4	5	4月14日
4	ことばの意味と文化	宮畑 一範	月	4	5	4月14日
5	家族社会学	田間 泰子	火	1	10	4月15日
6	教育福祉学への招待	田間 泰子	火	4	10	4月15日
7	科学の思想	斎藤 憲	水	2	30	4月16日
8	平和学の視点	山崎 正純	水	2	5	4月16日
9	国際文化の視点	萩原 弘子	水	4	3	4月16日
10	環境生物学	中山 祐一郎	金	2	10	4月11日
11	共生社会と宗教	秋庭 裕	金	3	5	4月11日
12	地域福祉論A	小野 達也	金	3	10	4月11日
13	心の病理学	総田 純次	金	4	5	4月11日
14	マイノリティと文化システム	萩原 弘子	金	5	5	4月11日

1コマ: 9時00分～10時30分 / 2コマ: 10時40分～12時10分 / 3コマ: 12時55分～14時25分
4コマ: 14時35分～16時05分 / 5コマ: 16時15分～17時45分

会場 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス

対象 どなたでも(全期間を通じて受講できる方)

受講料 1講座 3,000円
(尚、一旦お支払いいただいた受講料は、返金いたしかねますのでご了承ください)

申込方法 「ハガキ」又は「Eメール」に、①ご希望の講座名、②郵便番号・住所 ③氏名(ふりがな)・年齢 ④電話番号 を記入の上、3月13日(木)《必着》までに、下記宛先へ。

※申込者多数の場合は抽選にて受講者を決定します(結果については全員に通知します)

※お一人様1通のみ

申込先 〒599-8531 堺市中区学園町1-1
大阪府立大学 地域連携研究機構 生涯教育センター「授業公開講座」係
e-mail: jk26@ao.osakafu-u.ac.jp (半角英数) ※携帯メール不可

問合せ先 TEL: 072-254-9942 (生涯教育センター) © 講義概要については、裏面をご覧ください

※お申込の際の個人情報は、申込後の事務連絡、統計資料等の作成及び本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。



大阪府立大学 授業公開講座 平成26年度 前期

この授業公開講座では、本学の授業科目の一部を一般の皆さまに公開し、学生とともに授業を受けていただける講座となっております。皆様のご参加をお待ちしております。

平成26年 4/11(金) ～ 平成26年 7/25(金)
各15回(予定)



- ◆ 西洋思想の系譜2A
- ◆ 平和学の視点
- ◆ 中国古典語 I
- ◆ 国際文化の視点
- ◆ ジェンダーとヨーロッパ文化
- ◆ 環境生物学
- ◆ ことばの意味と文化
- ◆ 共生社会と宗教
- ◆ 家庭社会学
- ◆ 地域福祉論A
- ◆ 教育福祉学への招待
- ◆ 心の病理学
- ◆ 科学の思想
- ◆ マイノリティと文化システム



平成26年度 大阪府立大学 授業公開講座(前期)【講義概要】

講座番号 1: 「西洋思想の系譜2A」(人間社会学部) 中村 治 教授

環境破壊の原因を思想に求めるのではなく、暮らしの変化に求め、戦後に暮らしの大きな変化が起こるまで、どのように暮らしが営まれていたのか、それがどのような過程を経て変化し、その結果、どのような問題が起こってきたのか。昔の暮らしぶりを写した写真を見ることにより、身近な暮らしの変化から、現代社会がかかえる諸問題を考察する。そして自分の身近なところで起こっている変化を見つめ、その変化の原因について考え、その変化と自分とのかかわりについて考えたい。

講座番号 2: 「中国古典語 I」(高等教育推進機構) 大平 桂一 教授

学習者向けに注釈が施された中国古典を講読しつつ、現代中国語文法との相違点や漢文訓読との関係などを学びます。同時に読解に必要な辞書、参考文献の利用法に習熟します。また、中国古典の読解を通じて現代中国を理解するために必要な中国文化の成り立ちに関する知見を得ます。本年度は特に、中国の言語と文化に関わる歴代の散文を読んでいきたいと思えます。『史記』『資治通鑑』『世説新語』『説文解字注』などを予定しています。なお講読は中国語及び漢文訓読法をもちいて行いますが、現代中国語の知識のない人のために、大平が編集した教科書『簡明中国語教科書』を用いて、発音と簡単な文法の手ほどきを行う予定です。

講座番号 3: 「ジェンダーとヨーロッパ文化」(高等教育推進機構) 村田 京子 教授

フランス・フェミニズム運動の先駆けとみなされる19世紀の女性作家ジョルジュ・サンドの生涯と作品を取り上げ、ジェンダーの視点から探ります。サンド(本名:オロール・デュウヴァン)は「ジョルジュ」という男のペンネームを使い、男装の作家として有名です。本講座では、彼女がなぜ男装をしたのか、その理由を当時のジェンダー観を浮き彫りにしながら考察します。さらに彼女の作品(『ガブリエル』『モーブラ』『魔の沼』『愛の妖精』『ジャンヌ』など)に登場する女性たちに焦点を当て、「女らしさ」の枠を超えた人物がどのように描かれているのかを検証すると同時に、「男らしさ」「女らしさ」について皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

教科書: 日本ジュルジュ・サンド学会編『200年目のジョルジュ・サンド 解釈の最前線と受容史』新評論

講座番号 4: 「ことばの意味と文化」(高等教育推進機構) 宮畑 一範 准教授

ことばの意味は、異なる言語間で見比べた場合、文化の違いと結びつけた相違点が強調されがちです。しかし、実は共通する部分も非常に多く、残念なことにこれまでそれは見過ごされたり、あるいは、過小評価されてきました。この授業では、英語と日本語を対象に(これまでの英語教育の中で、英語は日本語とは異なる言語なのだから、根本的に発想を変えないといけない、と刷り込まれている人が多いと思えます)実際には共通する発想がいかに多いかを豊富な言語事実を踏まえて確認していきます。また、それが何を意味するかも考察していきます。毎回トピックを定め、英語と日本語とでいかに発想(の大元)が共通するかを確認します。授業の理解度を確認するために、毎回のトピックに関連する内容で、類例を探したり、それに基づいて考察をするなどの課題に取り組んでもらいます。

講座番号 5: 「家族社会学」(地域保健学域 教育福祉学類) 田間 泰子 教授

日本の家族の歴史的变化と現状を知り、現代家族がかかえる諸問題を考察するための理論的方法について学びます。①「家族」とは何か ②家族の歴史的变化(統計にみる家族の形と歴史人口学) ③家族の機能 ④社会構築主義的アプローチ ⑤社会的ネットワークと家族 ⑥近代家族と現代家族 ⑦家族にかかわる諸制度 ⑧海外の家族との比較 ⑨現代家族の諸問題その1 ⑩現代家族の諸問題その2 ⑪社会的排除と家族 ⑫まとめ

講座番号 6: 「教育福祉学への招待」(地域保健学域 教育福祉学類) 田間 泰子 教授

私たちの社会がさまざまな困難を抱える現代、従来の「社会福祉」や「教育」という縦割りの発想では、もはや解決できない状況となっている。教育福祉学類では、社会福祉や教育などの専門性を活かしながら、かつ協働によって人間を支援していくことのできる人を育てる、新しい取組みを行う。この科目では、そのための「招待」として、学類教員が順々に担当し、それぞれの専門分野から、現代社会の課題と教育福祉学的な人間支援のあり方について講義する。講義テーマ例: 地域、家族、精神障害、高齢者福祉、貧困、教育、特別支援教育、子ども福祉、セルフヘルプグループ、セクシャルリティほか。

講座番号 7: 「科学の思想」(現代システム科学域) 斎藤 憲 教授

17世紀の近代自然科学の成立(科学革命と呼ばれます)に焦点をあて、自然現象を数学的法則が支配しているという信念と、それに基づく新しい科学がどのように成立したかを見ていきます。最初にアリストテレスが集大成した古代ギリシャの自然観を概観し、それが16、17世紀にどのように転換していったのかを検討します。観察事実の蓄積や技術の進歩、数学の重視といった、いわば分かりやすい要因だけでなく、神秘思想や魔術といった要因も重要であったことを明らかにします。

平成26年度 大阪府立大学 授業公開講座(前期)【講義概要】

講座番号 8: 「平和学の視点」(高等教育推進機構) 山崎 正純 教授

国際的な水準では、経済的・文化的なグローバル化の力が次第に抵抗しがたいものになってきています。その圧力は、日本国内でも複雑で爆発的な反応を連鎖的に引き起こしています。国境を越える人々・情報・知識の流通が大きな開放性や多様性を生み出すと同時に、グローバル化にもたら社会的・経済的な不確実性と不安定性が、「他者」への恐怖と、想像された単純な過去へのノスタルジックな陶酔を誘発しているのが現状でしょう。本講義では、テッサ・モーリス・スズキ著『批判的想像力のために——グローバル化時代の日本』(平凡社ライブラリー)をテキストとし、関連文献を適宜プリント配布しながら、国民国家内部における文化的多様性をめぐる諸問題を今日的視点から考察することを目的とします。

講座番号 9: 「国際文化の視点」(高等教育推進機構) 萩原 弘子 教授

第3世界に暮らす人々の多くが貧しいというのは現実です。豊かな暮らしをしている者は、その貧困を「おくれ」と捉えがちです。つまり第3世界の人々、その社会・文化が本来的にもつ、いろいろな意味での「遅さ」が、結局貧困という結果を招いていると考えがちです。本講は、そう考えることのどこが間違っているかを具体的に知ることを目標とします。まずは、世界的視点で文化を見るときはどういうことか、という問いから始めて、文化を支える具体的基盤である政治・経済秩序の構造、その歴史を知ることを意味を確認します。そして、第2次世界大戦後の国際社会の経済・政治秩序の形成に焦点をあて、その過程で進んだグローバル化と、人々の暮らし(文化)の破壊(貧困や戦争)をふりかえり、さらにはその克服を展望する新しい動きにも理解を開いていこうと思えます。

講座番号 10: 「環境生物学」(現代システム科学域) 中山 祐一郎 准教授

人間の生命や生活を支える生物多様性の意義や重要性を理解するために必要な生物学の基礎を習得することを目標に、生物の進化と絶滅の歴史を軸にして、生物の分類、構造、遺伝、生活環、生態、生物と環境との相互作用などについて講義します。

講座番号 11: 「共生社会と宗教」(現代システム科学域) 秋庭 裕 教授

<目標>「グローバル化時代の宗教」を考察する。じつは、21世紀は「宗教の時代」なのである。今日宗教が分からなければ世界は分からない。21世紀、人類は異質との共生を樹立できなければ、未来は拓けない。このような視点から、今や宗教を理解することが決定的に重要なのである。<授業計画の概要>以下のような項目を講義する。
・エスニシティと宗教 ・国家と宗教 ・近代における宗教 ・宗教のプレモダン／モダン／ポストモダン ・グローバル化時代における宗教の変容 ・共生社会の必然性

講座番号 12: 「地域福祉論A」(地域保健学域 教育福祉学類) 小野 達也 准教授

地域福祉論Aの教育目標は、地域福祉の必要性や概念を理解させることです。地域福祉は、主流化したと言われていますが、その意味合いを考えます。講義の構成は3つに分かれています。まずはじめに、なぜ地域福祉が必要なかを考察します。そのためには、現在の生活の仕組みを学ぶこととなります。次に、地域福祉を構築していくための枠組み、構成要件を考えます。最後に地域福祉に関する様々な考え方について検討します。地域福祉は、一部の人のためにあるのではなく、地域に住むすべての人に関わるもの、というのが基本的な姿勢です。

講座番号 13: 「心の病理学」(現代システム科学域) 総田 純次 教授

昨今、メンタルヘルスの重要性が強調されるようになり、保健所を中心としたうつ病や自殺予防対策、企業などでのメンタルヘルスマネジメントの強化などの政策が施行されています。本講義では、将来臨床心理学を専攻する学生のみならず、比較的広い層を対象に、いわゆる「心の病気」について概説します。取り上げる予定は、認知症や譫妄といった高齢者に多い精神障害、統合失調症やうつ病という従来精神医学の主要な対象で精神障害、20世紀の終わりごろからクローズアップされてきたバーン・ナリティ障害、精神分析の主なフィールドであった神経症などです。それぞれの精神障害について視聴覚資料も用いつつその病像などを解説した後、精神分析理論なども援用しつつ、その心理学的メカニズムにも光を当てたいと思えます。また治療法についても概説します。

講座番号 14: 「マイノリティと文化システム」(現代システム科学域) 萩原 弘子 教授

文化の形成を論じる視点の基礎をお話しします。私たちは「フランスの文化」「イギリスの文化」というように、国家を単位として文化を見ることをよくします。しかし文化は、国家のなかではどこも一様というものではありません。また国家の境界を越えて文化的連続性や一体性がある場合もあります。国家境界内で文化が均質であるということではなく、差異があり、文化的マジョリティとマイノリティが存在するものです。本講では、西洋世界における近代国家が理念としてかけた文化的一元性、また植民地統治方法としての文化的同化主義をふりかえりながら、文化の現実と、文化システムとしての国家を考えてみます。具体的にはスペイン、イギリス、フランスの国家による言語をめぐる文化政策に焦点をあて、現実の多言語状況と、国家による一元化政策の矛盾について詳しく、批判的視点を培うことをめざします。